

# 小学校教科「体育 A」における授業内容の検討<sup>†</sup>

加藤 謙一\*・茅野 理子\*・石塚 諭\*・木下 咲夫\*\*  
小宮 秀明\*・久保 元芳\*・黒後 洋\*  
宇都宮大学教育学部\*  
元宇都宮工業高等学校\*\*

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第4号 別刷

2018年2月28日



## 小学校教科「体育A」における授業内容の検討<sup>†</sup>

加藤 謙一\*・茅野 理子\*・石塚 諭\*・木下 咲夫\*\*

小宮 秀明\*・久保 元芳\*・黒後 洋\*

宇都宮大学教育学部\*

元宇都宮工業高等学校\*\*

本研究では、小学校教科「体育A」の受講生を対象に、小学校体育で実施される運動領域の興味や基本的な技能およびその指導法の習得について、アンケート調査をもとに明らかにしようとした。受講前後の学生の体育に対する意識の変容は、受講前では体育は好きが53.6%、嫌いが21.9%、どちらも言えないが24.5%であった。受講後では、嫌いと回答した学生は4ポイント減の17.9%となった。その一方で、受講後に好きと回答した割合は82.1%となった。すべての学生は、授業内容が教育実習や教育現場での指導に役立つと回答した。その学習内容は、具体的な指導方法、教師の目線と子どもの関心、具体的な教材が上げられた。

キーワード：小学校教員養成，小学生，体育科教育法，オムニバス

### 1. はじめに

現在、小学校教諭の1種免許を取得するには小学校の各教科における教育法（2単位）をそれぞれ取得しなければならない。小学校教員は、全科を担当することからすべての教科教育法を修得しなければならないため、1教科を履修するための時数も自ずと制限させる。本学ではそれに加えて小学校の各教科（1単位）を必須としている。すなわち、体育では体育科教育法と体育Aの3単位を修得することになる。このことは他の教科においても同様である。それでも、小学校教員を養成する上で教科を指導するための時数が十分に確保されているわけではない。

したがって、小学校の教科教育法や教科に関わる科目は、授業内容を吟味し、小学校教員養成に相応しいものにしていかなければならない。前述した体

育科教育法と体育Aの授業は、本学では主に前者では指導案を作成して模擬授業を実施するまでの内容、後者は小学校体育の運動領域をもとに実技を通じた教材研究を実施している。そして、両者は補完関係にある。

体育は小学校教科の中で唯一、教科書のない科目として扱われている。このことは、現職教員だけでなく、学生が教育実習において初めて体育を指導する際に大きな不安を抱えていることが懸念される。したがって、そうした学生の不安を少しでも取り除くためには、少なくとも教育実習で指導するための最低限の知識や実践方法を習得させる必要がある。

一方では、小学校では全科を担当することが前提となっていることから、学生にとって担当する教科が好きであったり、得意であるとは限らない。とくに体育のような実技教科では、運動が苦手な学生には嫌いな科目であることも考えられる。一般に、体育はその技能が興味の中心になることがあるが、競技スポーツとは異なり、教科としての学習の目的を伝える必要がある。少なくともそのような観点で学生が指導するための素養を修得させることが必要である。

本論では、体育Aの受講生を対象に、体育への興味（好き・嫌い）の変化や体育の指導内容の理解度を吟味し、今後の授業内容の改善に役立てようとするものである。

<sup>†</sup> Ken-ichi KATO<sup>\*</sup>, Masako CHINO<sup>\*</sup>, Satoshi ISHIZUKA<sup>\*</sup>, Sakio KINOSHITA<sup>\*\*</sup>, Hideaki KOMIYA<sup>\*</sup>, Motoyoshi KUBO<sup>\*</sup> and Hiroshi KUROGO<sup>\*</sup>: Examination of class contents in elementary school subject "physical education A"

Key words: primary school teacher training, primary school students, physical education method of education, omnibus

\* School of Education, Utsunomiya University

\*\* Former Utsunomiya Technical High School  
(連絡先: katok@cc.utsunomiya-u.ac.jp : 著者1\*)

## 2. 研究方法

### (1) 調査対象および授業計画

調査対象の学生は、平成29年度前期体育Aを受講（1-2時限および3-4時限）し、事前事後の両調査に回答した152名であった。表1に、平成29年度前期体育Aの授業内容と担当者を示した。授業は両時限ともAとBの2つのクラスに分けそれぞれ35-40名の人数とした。授業を円滑に進めるために、AおよびBクラスについて、それぞれティーチングアシスタント1名が加わり、授業の事前打ち合わせや当日の授業準備、授業補助にあたった。第1週目の授業は、オリエンテーションで本授業の内容、目標目的、授業計画および具体的な進め方が学習方法について説明を行った。また、1週目と14週目に事前事後調査を実施した。両調査では、体育に対する興味（好き・嫌いなど）を、また事後調査では授業内容が教育実習や教育現場での指導に役立つかどうかを（はい・いいえ）で回答し、加えてその理由を

記述してもらった。授業は小学校体育で扱われる運動領域をもとに構成されている。

### (2) 授業内容

陸上運動、器械運動、ボール運動および表現運動は3時間、水泳は2時間実施された。また、体づくり運動は、単独では扱わずに、上記の5つの運動領域で扱われた。

表2-4に、陸上運動、器械運動、ボール運動および表現運動の主な学習内容を示した。なお、これらの運動領域の学習内容は小学校体育の学習指導要領解説<sup>4)</sup>に依拠するとともに、教材研究に関する文献<sup>1, 2, 3, 5, 6)</sup>に基づいたものである。

### (3) 課題レポート

陸上運動、器械運動、ボール運動および表現運動の授業終了後、レポートが課された（本授業で得られたことなど）内容から学生の体育指導に対する考え方を検討した。

表1 平成29年度前期 体育A 授業計画

週	月日	授業内容		担当
1	4月11日	オリエンテーション・事前調査		加藤・茅野・石塚
		Aクラス	Bクラス	
2	4月18日	陸上運動(かけっこ・リレー)	器械運動(マット運動)	木下
3	4月25日	陸上運動(走跳の運動)	器械運動(跳び箱)	
4	5月2日	陸上運動(ハードル走)	器械運動(鉄棒)	
5	5月9日	器械運動(マット運動)	陸上運動(かけっこ・リレー)	加藤
6	5月16日	器械運動(跳び箱)	陸上運動(走跳の運動)	
7	5月23日	器械運動(鉄棒)	陸上運動(ハードル走)	
8	5月30日	ボール運動(ベースボール型)	表現運動(リズムダンス)	茅野
9	6月6日	ボール運動(ネット型)	表現運動(フォークダンス)	
10	6月13日	ボール運動(ゴール型)	表現運動(表現)	
11	6月20日	表現運動(リズムダンス)	ボール運動(ベースボール型)	石塚
12	6月27日	表現運動(フォークダンス)	ボール運動(ネット型)	
13	7月4日	表現運動(表現)	ボール運動(ゴール型)	
14	7月11日	水泳(水遊び・クロール/A・Bクラス共通男女別)・事後調査		小宮, 黒後, 久保, 加藤, 石塚
15	7月25日	水泳(水遊び・平泳ぎ/A・Bクラス共通男女別)		

表2 陸上運動（かけっこ・リレー）の授業内容

<p>●はじめ（導入）</p> <p>○集合、本時の説明（かけっこ、リレー遊び）</p> <p>○グルーピング（6グループ）</p> <p>○準備運動…いろいろなゲーム</p> <p>①ジャンケンでたし算やひき算をする。（グー＝1，チョキ＝2，パー＝5）→2人組，3-4人組で行う。</p> <p>②おんぶをする。2組が向かい合い，おんぶしてもらっている上の人同士でじゃんけんをする。じゃんけんで負けた方は，相手のペアをそれぞれおんぶする。これを繰り返して行う。</p> <p>③2人組でジャンケンをして，負けた方が勝った方の後ろに並ぶ。常に先頭の人がじゃんけんをして最後1列になった先頭の人がチャンピオンとなる。</p> <p>・膝の屈伸，伸脚（深淺），前後屈，体の回旋，2人組で柔軟体操</p> <p>●なか（展開）</p> <p>○いろいろなリレー（片道15-20mの折り返しリレー）</p> <p>・チームで一列になり，前の人の肩に手をおく。肩においた手が離れたら失格。</p> <p>①かけっこ，②スキップ，③両足跳び…教師の合図で前後左右に移動する。30秒間継続できれば成功。</p> <p>・バトンを使ったリレー</p> <p>①スキップ</p> <p>②スライディング…頭と足先は進行方向に対して横向きになっている。往復とも同じ方向を向いて行う。</p> <p>③ギャロップ…スライディングのリズムで頭と足先を進行方向に向ける。往復で先導足をかえる。</p> <p>④クロスステップ…往復とも同じ方向を向いて行う。</p> <p>○スタート遊び（中心線から両側10mに線を引く，両側10mを越えると安全地帯）</p> <p>①右，左（赤，青）：教師の「よーい，右・左」の指示で素早くその方向へダッシュする。</p> <p>②偶数，奇数：①と同様で「偶数は右」「奇数は左」とルールを決めておき，ダッシュする。</p> <p>③一桁の足し算，引き算（九九）：②の応用で一桁の足し算が偶数であれば右，奇数であれば左へダッシュする。引き算も同様。</p> <p>④ネコとネズミ（ゴリラとゴジラ，ウシとウマ）：線をはさんで2組（ネコとネズミ）に分かれて向かい合う。先生の合図「ネネネ…ネコ」または「ネネネ…ネズミ」で呼ばれた方が正面の相手を追いかける。反対に呼ばれなかった方は素早く安全地帯に逃げ込む。呼ばれた方を逃げる方にしてもよい。</p> <p>⑤じゃんけん鬼：線をはさんで2組に分かれて向かい合い，向かい合った2人でジャンケンをする。勝った方が負けた方を追いかけて，負けた方は素早く安全地帯に逃げ込む。負けた方が追いかけてもよい。</p> <p>●まとめ</p> <p>・本時で学習したことの振り返り。</p> <p>・次回の準備についての連絡，後かたづけをする。</p>
---

表3 器械運動（マット）の授業内容

出席確認 及び マット準備（6人でロングマット1枚）	準備運動 前後肩回し導入法 手首・アキレスのストレッチ
授業の進め方 準備運動 平均立ち	
＜ 求める指導者像 ＞	
① 「頑張らせない」で、「頑張るように」へ工夫する < 遊びから技へ（技術） >	
② 方向性の良い動きを見逃さない。	
③ 児童の能力に応じて展開できるよう，多くの引き出しを持つ。	

<p>・倒立への導入 支持足たたき・カエル支持・壁倒立 腕立て横跳び越し（側方倒立回転）</p> <p>1 導入・・・歩く（目を閉じて）6m 先から誘導（手叩き・声）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・這い這い・クモ歩き・四つ足（同時に接して）</li> <li>・競争・・・&lt;1例&gt; 膝立ち歩き競争</li> </ul> <p>2 色々な転がり(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆりかご、起き上がりこぼし、横転と側転、その他（腹を接して転がる＝ローリング）</li> <li>★ 理想的な転がりとは（仮に 内村選手のでんぐり返しは・・・）</li> </ul> <p>3 色々な前転の方法(10分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 腕組み前転（片脚振り上げ式）⇨ &lt;発展&gt;集団で腕組み前転</li> <li>② 3人組で補助による前転 ⇨ 両サイドから手を繋ぎ反対の手で肘あたりを補助して行う。</li> </ol> <p>4 効率的な転がり(15分)「みかん型」と「バナナ型」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 背倒立からの転がり&lt;回転加速技術&gt;（立ち上がる・開脚立ち・伸膝立ち）</li> <li>② 長座から後ろ転がり&lt;回転加速技術&gt;（手の付き方・回転加速方法）</li> <li>③ &lt;発展方向&gt; 前転 ⇨開脚前転 ⇨伸膝前転</li> <li>④ &lt;発展方向&gt; 後転 ⇨開脚後転 ⇨伸膝後転</li> </ol> <p>5 側方倒立回転への導入（10分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 導入指導のポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 手と足の関係がわからない?⇨ 壁や台利用した感覚づくり</li> <li>(2) 立ち方がわからない? ⇨ 上記同様に目線の置き方と立ち足の方</li> </ul> </li> <li>② 段階指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 壁や台を利用して高い位置で行う。</li> <li>(2) マット四つ折りやバスケサークルを利用して行う。</li> </ul> </li> </ol>
--

表4 ボール運動の授業内容

ベースボール型	ネット型	ゴール型
<p>○集合 本時の説明</p> <p>○グルーピング</p> <p>○準備運動（体ほぐしも含めて）</p> <p>二人組でストレッチ</p> <p>膝タッチゲーム</p> <p>キャッチボール</p> <p>○バッティングゲーム</p> <p>数人チームに分かれてバッティングを行う時間を行った。仲間が投げたボールを打つか、ティーに乗せたボールを打つか選択しながら行う。打ち方は、仲間のアドバイスや資料をもとに学習する。また、カラーコーンとペットボトルを用いた教具の紹介も行った。</p>	<p>○集合 本時の説明</p> <p>○グルーピング</p> <p>○準備運動（体ほぐしも含めて）</p> <p>二人組でストレッチ</p> <p>バレーボールを用いて対面パス</p> <p>ボールを投げ上げてキャッチ</p> <p>○エアホッケー風ゲーム</p> <p>2対2で行うゲーム。ボールを拳でたたき、転がしながら相手コートのラインを突破すると得点になる。このゲームを用いた意図は、ネット型の競争課題を理解し、ネット型特有の課題解決の方法に気づかせるためであった。ゲーム後に短い論議を行い、ネット型の戦術を確認した。</p>	<p>○集合 本時の説明</p> <p>○グルーピング</p> <p>○準備運動（体ほぐしも含めて）</p> <p>二人組でストレッチ</p> <p>ドリブル鬼</p> <p>すり抜け鬼</p> <p>○タグラグビー</p> <p>受講生の多くは、これまでの学校体育でバスケットボールやサッカーなどのゴール型の経験があり、3つの型でもっともよく理解しているという実態がある。しかしながら、学習指導要領の解説には、「陣地を取り合うゴール型」としてタグラグビーが例示されている。受講生</p>

<p>○ろくむし 進呈課題を用いた伝承遊びを紹介し、実践した。鬼は、安全地帯から離れた「むし」にボールを当てるか、タッチすることを行う。「むし」はボールに当てられないように、または、ボールを持った鬼にタッチされないように進呈を繰り返す。実践では遊びながらルールを変え、ベースボール型の構造を理解するように努めた。</p> <p>○並びっこベースボールをもとにしたゲーム 低中学年のベースボール型ゲームとして紹介した。低学年で行う最低限のルールでスタートした。その後、自分たちに合うようにゲームを行いながらフェアゾーンの設定やベース間の距離、チェンジのルールを追加していった。</p>	<p>○ブレルボール 学習指導要領の解説に掲載されており、現場で指導する可能性があるゲームである。しかし、受講生のほとんどが未経験の教材であった。そのため授業ではルールを理解し、経験することが課題になった。このゲームは、自陣にバウンドさせてから相手コートに送り出すため、バレーボールとは異なる解決方法が有効な場合があることを学生にも伝えた。</p> <p>○ソフトバレーボール バドミントンコートを用いて行った。少人数で行うことなど、小学校体育に応じた修正を行い実施した。意図的に組み立てて送り出すことを意識して、三段攻撃の意味が理解できるような展開を心掛けた。</p>	<p>の多くが経験のないゲームであった。そのため、ブレルボール同様に理解と経験を目的に行った。授業では、前方にボールを送り出せないことをはじめ、ラグビー型特有のルールの理解に困難を示す学生が多く見られた。途中でボールに位置によって変動する「ライン」を意識させることでゲームの内容理解が進み、意図的な動きが見られるようになった。</p> <p>○入れかわり風ポートボール 特定の位置にあるフラフープ内に自チームのプレイヤーが入り、パスが成功すれば得点になるゲーム。中学年から高学年まで実践できる内容になっている。特にパスとスペースへの走りこみを意図的に学習する際に適している教材である。</p>
---	---	--

表5 表現運動（リズムダンス・表現）の授業内容

<p>○本時の授業内容の説明と出席確認 ダンスキーワードと学習内容及びねらいについての説明（学習指導要領解説を含めて）</p> <p>①デッサンー多様化に関連 動きをいろいろ工夫できる。 ②デフォルメー極限化に関連 精一杯動くことができる。→メリハリにつながる。 ③「ひと流れ」の動き（即興表現）と「ひとまとまり」（作品創作）</p> <p>●ダンス・ウォームアップ 出会いのダンス（⇒ジャンケンゲームへ発展）</p> <p>①リズムにのって楽しく動きながら、いろいろな人と交流する。 ②話しながら動く練習をするーリズムにのって動きながら言葉かけをすることができることを意図して。</p> <p>○低学年のリズムの取り方についての説明</p> <p>●「リズムダンス」の授業のはこびを体験しながら、基本の技能を習得する。</p> <p>1. 先生と一緒に課題練習</p> <p>①基本ステップを練習する：サイドステップ（2歩→4歩）、グレイブパインステップ、スリーステップターン、ボックス、ケングッパー *難しいステップはゆっくりしたリズムで動きの理解・習得を図った後、元の早さに戻す。 ②動きを変化させる方法を学ぶ：上肢の動きをプラスして、リズムの変化、ひねりを加えて。</p> <p>2. 2人組で動きの工夫（交替でリーダー役になり、リーダーの動きを真似する）</p> <p>①基本ステップに上体の動きを工夫して。 ②2種類のステップを組み合わせて動く（新しいステップを工夫してもいい）。</p> <p>○「リズムダンス」の要諦について説明： アフタービートと縦揺れ</p> <p>○1時間の授業の流れを確認する。</p> <p>①ウォーム・アップ（導入）ー先生と一緒に課題練習（導入から展開へ）ーグループで動きの工夫（展開）ー見せ合い（まとめ） ②「表現」と「リズムダンス」は創造的な学習、「フォークダンス」は定型の学習であることへの理解。</p>
---

●「表現」の典型教材「しんぶんし」を1時間(30分に短縮)の授業の流れで実践する。

ねらい：新聞紙を操作したり、新聞紙の動きを真似したりして、多様な動きに挑戦しよう

#### 1. ウォーム・アップ：新聞紙を操作して遊ぶ(導入)

(1人で)①床に置いた新聞紙を跨いでアキレス腱を伸ばす(短辺→長辺)

②手を離れた新聞紙を落とさないように掴む(→拍手1回→2回, 3回と挑戦→1回転して)

(2人で)①相手の新聞紙を落とさないように掴む→2人の距離を大きく取って挑戦

②新聞紙をなびかせながら、リーダーが先導していろいろなところを走る→ハンドドラムの合図で投げ飛ばす(相手の新聞紙を受け取る)→「走る→投げ飛ばす→受け取る」の「ひと流れ」を3回、流れを切らないようにして続ける(リーダー役を交替しながら)

#### 2. 新聞紙の動きを真似して遊ぶ(展開)

①先生と一緒に課題練習(展開1)

「新聞紙の動きをよく見て真似しよう」先生が操作する新聞紙の動きを真似してすぐに動く。

(1人で動く)先生が操作する新聞紙の動き(床に置く, 斜めに折る, 捻る, 丸める-ゆっくりと, 転がす, 飛ばす-2回)をすぐに真似する。

\*他とは違った動きをしている子を素早く見つけて必ず褒める(最初の床に置いた新聞紙の真似, 仰向けだったり, うつ伏せだったり), 新聞紙になりきっている子を見つけて褒める。

\*「飛ばす」動きの模倣では, 示範してみせ, 動きの変化や床に落ちた時の形などに言葉と動きで気づかせる。

②2人組で動きの工夫(展開2)

ペアの相手が操作する新聞紙の動きを真似する。

\*走る, 回る, 跳ぶ, 転がるなどの運動を想定しながら新聞紙を動かす。

\*単調にならないように, 場所や高さ, リズム(ゆっくり, 一気に)などを変えて操作する。

#### 4. 2組(4人)一緒になり, リーダーを交替し合って3人で真似する(まとめ)

○見せ合いについての説明：低学年, 高学年で留意すべきこと 本時では, 動きながら見せ合いとしたこと。

文中○は説明, ●は実践, \*は指導者として留意しておきたいことへの助言を示す。

### 3. 結果および考察

#### (1) 受講前後の学生の体育に対する意識の変容

図1に, 受講前後の体育に対する興味(好き・嫌い)に対する結果を示した。受講前では, 体育が好きが53.6%, 嫌いが21.9%, どちらとも言えないが23.8%であった。受講後において, 嫌いと回答した学生は4ポイント減の17.9%となった。一方, 受講後ではどちらとも言えないと回答した割合は0%となり, 体育が好きな学生は82.1%となった。このことは, 体育が嫌いな学生が減少しただけでなく, 受講前では, 好きでも嫌いでもないと回答した学生がすべて好意を持ってくれたことによるものである。また, 受講後には, 授業内容が教育実習や教育現場での指導に役立つかどうかを聞いたところ, すべての学生は, はいと回答した。すなわち, 将来, 子どもたちの前で体育を指導する上で, どのように実施したらよいのかをある程度, 理解することができたと捉えることができる。このことは受講後に多くの学生が体育に好意を持ったこととも関連すると考えられる。

図2に, 授業内容が役立ったと感じた内容について示した。この内容は, 自由記述をもとに分類したものである。受講後に多く学生が体育に好意を持つようになったのはどのような理由によるのであろうか。約3割の学生が具体的な指導方法に理解できたことを上げている。これまで体育に何となく関わって来たことが明確な授業方法に触れることで体育の学習内容が理解できたのではないかと考えられる。多くの学生は, これまでできた, できなかったなど結果だけでその良否を判断していたが, どうしてできたのか, どうしたらできるようになるのか, あるいはどうしたら楽しくできるのか, に関して理解がなかったようである。しかし, 自由記述にはスモールステップで指導することへの理解や低学年, 中学年, 高学年へと学年進行につれてどのように関わるかについての記述が多くみられた。また, 教師の目線についての記述も約2割みられた。子どもへの声のかけ方や運動が苦手な子への配慮など, 個人差に応じた配慮の仕方に興味を持って受講した記述がみ



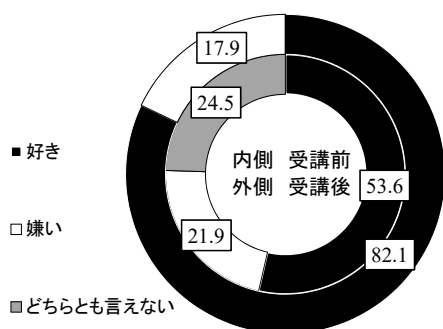


図1 受講前後の体育に対する興味（好き・嫌い）

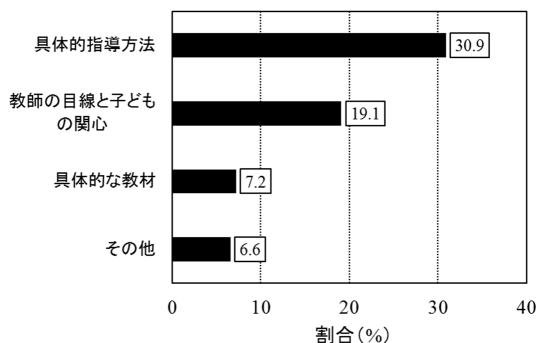


図2 授業内容の中で役立ったと感じたもの

られた。

さらに、具体的な教材についても触れ、実際にどのような授業内容を扱ったらよいのか、そこからアイデアを膨らますことができそうなどの記述もみられた。これらのことから、学生は授業者として授業を考える姿勢が備わってきたことが示唆される。

## (2) 本授業から得た体育指導に対する考え方

陸上運動、器械運動、ボール運動および表現運動の各運動領域で学んだことについて振り返り（レポート課題）にみられた主な内容を以下に示す。

### 【陸上運動】

(学生A) 本授業は、「できる子」、「できない子」のどちらも運動することが楽しめるように工夫されていた。リレーでは足が速い子が勝てるという従来のものではなく、スキップやギャロップなど様々な動き、運動を取り入れて走ることが苦手な人でも楽しめた。また、「友達を応援する」、「友達のよいところを発見する」という仲間とともに運動する楽しさを見いだせる授業であった。…（略）…体育は技能だけでなく運動を楽しむ心を育むこと、友達とコミュニケーションを育てること、論理的思考を育てること、これらを育てる教科であると気づいた。

(学生B) 最近推進されている「アクティブラーニングの導入」による学習も今後の体育の授業に関連させてよりよい学びにしていけることも大切である。私が考える体育でのアクティブラーニングはグループ（チーム）活動における競い合いである。ただ話し合いをして作戦を立てるだけに留まっていたら運動量が減少してしまうだけである。例えば、個人のタイムを競うことで走ることが苦手な児童は自尊心が低くなってしまいが、チームで競うことによって仲間の速さをつないでいかに効率よく記録を縮め

ることができるかという「体育における協同的な学び合い」を子どもたちは実践することが可能となる。

### 【器械運動】

(学生C) これまで体育が好きでなかった気持ちがあるが今回はわいてこなかった。その理由が3つある。1つ目は、スモールステップでの学習であったこと。簡単なことから始め、できるかとか、失敗する恐怖心や不安よりも体を動かすことの楽しさやワクワク感が強かった。2つ目は、様々な道具を使うことで手伝ってサポートできる利点を知ることができたこと。3つ目は1つ目と関わるが恐怖心を軽減することができたことであった。この恐怖心は道具を使うことで恐怖心を軽減させて悪循環の原因を絶つことができると考えた。これらのことによって体育への興味や向上心を持つことができた。この経験を生かして初等体育科教育法に取り組みたい。

(学生D) 説明と実践について、口頭だけでは伝わりにくいものが、実践をとまなうと理解しやすいことがわかった。このことは小学生の指導では十分に注意しなければならないと思う。

### 【ボール運動】

(学生E) ある程度の運動技術を習得することは必要不可欠だと感じた。一方で扱う技術ばかりを体育の時間でやることはできない。…略…実際にチームでプレーしている中で、運動技術が必要だと子どもが思うような授業づくりを心がけなければならない。また、楽しみながら運動技術を習得させることも必要だと感じた。例えば今回の授業で扱った「ろくむし」では、ボールをキャッチする能力、走り出すタイミング、ボールを投げる能力などを自然と要求されるゲームであった。子どもが熱中しながら、その中で自然と運動技術を習得できるゲーム

は、体育に積極的に取り入れたい。

(学生F) 今回のボール運動の授業を通じて、(ゲームの)「修正」について大切だと感じた。ゲームの理解を通してスポーツ(ベースボール型、ゴール型、ネット型)の構造を理解するために教材の修正は、授業前のもものと授業中のもものとどちらも重要である。その理解が、スポーツのおもしろさ、学習者に触れてもらいたいおもしろさにつながるのである。

(学生G) 授業者は、題材となる素材から子どもたちにどんな課題解決をさせたいのか理解する必要がある。そこからどのようにゲームを「修正」するのが一番子どもの意欲を掻き立て、さらに運動量を確保できるのかを考える。「修正」といっても学年やクラスの子どもの運動の得意さによって様々である。それは日頃から子どものことを近くでよく見てかかわり知ることが大前提になるだろう。これはどの領域でも同じことだと考える。

#### 【表現運動】

(学生H) 実際に、リズムの取り方や表現の仕方を学ばせる時にどのように指導すればよいのか、わかりやすく理解することができた。

(学生I) えっムリだよーと思っても新聞紙だけでダンスが完成したり、友達の面白い良いアイデアがあったりしてすごいと思った。柔らか〜い発想が大切だと思う。

(学生J) ダンスの授業が必修になる意味があまり分からなかったが子どもたちの表現力を広げたりすることなど他のことでは学べないことが学べると感じた。

(学生K) 自分で表現することが苦手な子どもに対して、どのような言動をしてあげることが必要なかを学ぶことができた。

(学生L) まともに表現運動・ダンスを受けてこなかったため、一からうけることができて新鮮で面白かった。

(学生M) 楽しかったのもう少し時間が欲しい。自分がやることで精一杯で指導法の観点でみるのができなかった。

以上の各運動領域で学習した内容の記述は、学生にとって、技能の習得だけでなく、指導法についても学生が深く考えようとする一端を示すものであると考えられる。

#### 4. まとめ

本研究の目的は、体育Aの受講生を対象に、体育への興味(好き・嫌い)の変容や体育指導の考え方の理解度を吟味し、今後の授業内容の改善に役立つようとするものである。その結果は以下のように要約できる。

(1) 受講前後の学生の体育に対する意識の変容は、受講前では、体育は好きが53.6%、嫌いが21.9%、どちらも言えないが24.5%であった。受講後では、嫌いと回答した学生は4ポイント減の17.9%となった。その一方で、受講後に好きと回答した割合は82.1%となった。

(2) 授業内容は、すべての学生が教育実習や教育現場での指導に役立つと回答し、その内容は、具体的な指導方法(30.9%)、教師の目線と子どもの関心(19.1%)、具体的な教材(7.2%)が上げられた。

(3) 各運動領域で学んだことについて振り返り(レポート課題)から、学生にとって、技能の習得だけでなく、指導法についても深く考える内容であったことが示唆された。

#### 参考文献

- 1) 石塚 諭(2013) 伝承遊び「ろくむし」を通して学ぶベースボール型の構造, 体育科教育61(10): 30-33.
- 2) 岩田 靖(2012) 体育の教材を創る, 大修館書店, 東京: pp.179-186.
- 3) 加藤謙一: 尾縣貢(編)(1998) 小学校 子どもと楽しむ体育の授業-2これは簡単!陸上運動 走る・跳ぶ・投げる. 学事出版, 東京: pp.8-17, 52-61, 110-121.
- 4) 文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説 体育編, 東京: pp.1-93.
- 5) 高橋健夫・藤井喜一・松本格之祐・大貫耕一編著(2008) 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店, 東京: pp.3-27.
- 6) 全国ダンス・表現運動授業研究会編(2015) みんなでトライ!表現運動の授業, 大修館書店, 東京, p.14, 134, pp.146-147.

平成29年10月31日 受理



# Examination of class contents in elementary school subject "physical education A"

Ken-ichi KATOH\*, Masako CHINO\*, Satoshi ISHIZUKA\*, Sakio KINOSHITA\*\*,  
Hideaki KOMIYA\*, Motoyoshi KUBO\* and Hiroshi KUROGO\*

\* School of Education, Utsunomiya University

\*\* Formar Utsunomiya Technical High School